

は じ め に

近年、子どもたちの命が奪われる悲しい事件や、自分の命を断ってしまったり、他人を傷つけたりする事件等がテレビや新聞で報道され憂慮にたえません。

その背景には、家庭や保育所、学校、地域における日々の暮らし等、周囲の環境が大きく影響しており、今、就学前教育と学校教育、家庭・地域との連携が重要視されています。

このことをふまえ、地域で育む子ども像を明確化し、関係機関と学校教育との共通理解を図りながら、子どもたちに「生きぬく力」を育み、その成長を支えていく必要性を痛感しています。

山都町は、平成25年度から2年間、熊本県教育委員会から幼・保等、小、中連携実践研究の地域指定を受け、清和中学校区の保育所、小・中学校が実践校となり、「いのち輝く清和っ子」をテーマとして研究実践に取り組んできました。

「いのち輝く清和っ子」の研究実践では、目指す子ども像を『知』よく考え進んで学ぶ清和っ子、『徳』ふるさとに誇りをもち、ともに生きる清和っ子、『体』ねばり強くたくましい清和っ子」とし、保、小、中を通して共有することを大切にして参りました。また、地域総体として子どもの生きる力を育む「清和地区保、小、中連携協議会」を組織し、清和地区青少年健全育成町民会議の専門部として位置づけ、支援して参りました。

それらの活動の一事例として、特に小・中学校における清和文楽の学習への協力は、淡路文楽からの協力指導にまでつながり、すばらしい成果を収めています。このような取組で保育所、小・中学校と家庭や地域との連携も強まっていることを見ますと、中一ギャップや小一プロブレム等の懸念も払拭されるのではないかと思います。

併せて、地域から巣立っていく子どもの社会的な自立のためにも、郷土愛の精神が大きく培われていくことと思われます。ここで改めて、保育所、小・中学校と家庭・地域との系統的な連携が不可欠であることを再認識しています。

「いのち輝く清和っ子」の取組は、自分たちがいきいきしているだけでなく、地域のおとなにも活力を与えていることにその成果を感じています。

最後になりましたが、熊本県教育委員会をはじめ、上益城教育事務所並びに関係各位より、このような機会をいただき、御指導、御支援いただきましたことに深く感謝し、お礼を申し上げます。

山都町教育委員会

教育長 山下 明 美